

# 会 議 録

## 1 会議名

第6回浦川原区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### ○報告（公開）

(1)会長報告

(2)委員報告

- ・中学生との意見交換会について

(3)市からの報告

- ・浦川原中学校の廃止と安塚中学校及び大島中学校との新設統合校の設置について
- ・「(仮称)地域独自の予算」(案)説明会の開催結果について
- ・3区中学校統合実行委員会準備委員会について

### ○協議（公開）

(1)自主的審議事項の検討について

(2)浦川原区地域協議会委員研修会について

### ○その他（公開）

- ・出張地域協議会について
- ・温浴施設のサウンディング調査について
- ・「人口・世帯に関する基礎データ集」について

## 3 開催日時

令和4年9月29日（木）午後6時30分から8時25分まで

## 4 開催場所

浦川原コミュニティプラザ 市民活動室4・5

## 5 傍聴人の数

なし

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員：赤川義男、小野正広、池田幸博副会長、春日清美、北澤誠、北澤正彦、五井野利一、杉田和久、藤田宏禎会長、宮川勇、村松進副会長

- ・事務局：浦川原区総合事務所佐藤所長、大橋次長、竹田次長、産業グループ山本グループ長、滝澤主幹、建設グループ大島グループ長、市民生活・福祉グループ石川グループ長、春日上席保健師長、教育・文化グループ山崎グループ長、総務・地域振興グループ北澤班長、西條主任

## 8 発言の内容

### 【藤田会長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・出席者は11人全員。欠席者は相澤誠一委員。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しているので、会議が成立する旨を報告。
- ・会議録の確認：五井野利一委員に依頼。

### 【藤田会長】

それでは、「2 報告」に入る。「(1) 会長報告」であるが、今回は持ち合わせていない。次に「(2) 委員報告」として「中学生との意見交換会について」、村松副会長に説明をお願いします。

### 【村松副会長】

11月8日火曜日の午前中に、浦川原中学校1年生13人を対象に、中学生との意見交換会における現地学習を計画している。今回は、浦川原区の伝統文化をテーマとし、「月影雅楽」と「保倉川太鼓」、「飯室神楽」の3か所を予定している。後日、正式な時間をお伝えするので、都合をつけて出席いただきたい。

### 【藤田会長】

今ほどの説明について、質問や意見があればお願いします。

質問がなければ、続いて「(3) 市からの報告」に移る。「浦川原中学校の廃止と安塚中学校及び大島中学校との新設統合校の設置について」教育・文化グループから報告をお願いします。

### 【教育・文化グループ山崎グループ長】

(資料1に沿って説明)

### 【藤田会長】

今ほどの説明について、質問や意見があればお願いします。

質問がなければ、続いて、前回の地域協議会で中学校の統合と併せて答申した「新市建設計画の変更について」、現在の状況を事務局から説明いただく。

**【総務・地域振興グループ北澤班長】**

前回の地域協議会で諮問し、答申をいただいた「新市建設計画の変更について」は、全ての地域自治区で同じ諮問をしており、全ての答申が<sup>そろ</sup>揃ってから市の対応を決定することとなる。昨日、全ての区の諮問が終了したため、時期は未定だが、今後の地域協議会で、答申に対する対応を報告するので、ご了解いただきたい。

**【藤田会長】**

続いて、「『（仮称）地域独自の予算』（案）の説明会の開催結果について」、事務局から説明をお願いします。

**【総務・地域振興グループ北澤班長】**

9月13日火曜日午後6時30分から、浦川原コミュニティプラザで、「（仮称）地域独自の予算」（案）の説明会を開催した。

当日は、これまで地域活動支援事業を活用してきた18団体のうち、7団体8人の皆さんから参加いただいた。内容は、先日、地域協議会で説明した内容と同じである。なお、これまで地域活動支援事業を活用していない団体の参加はなかった。今後、9月30日までに、令和5年度予算への反映を希望する事業の提案書を団体から提出していただくこととなっており、本日現在、3団体から事業の相談や提案をいただいている。提案いただいた事業は総合事務所で内容を精査し、予算原案を作成して、今後の地域協議会で委員の皆さんとも情報を共有していく。

**【藤田会長】**

今ほどの説明について、質問や意見があればお願いします。

**【赤川委員】**

相談や提案のあった3団体が誰か、教えてもらえるか。

**【総務・地域振興グループ北澤班長】**

3団体のうち1団体から提案書の提出があったが、あとの2団体は相談を受けたという状況であり、実際に提案があるかわからないため、提案書の提出があった1団体だけでお願いしたい。

**【赤川委員】**

結構である。

**【総務・地域振興グループ北澤班長】**

提案があったのは、保倉川太鼓の「浦川原和太鼓祭」である。

**【北澤誠委員】**

地域協議会で審査は行わないが、意見だけ聞くということか。

**【総務・地域振興グループ北澤班長】**

前回の地域協議会で説明したとおり、提案事業を共有し、地域協議会から意見をいただくということである。

**【藤田会長】**

他にないか。

質問がなければ、報告として承る。続いて、「3区中学校統合実行委員会準備委員会について」教育・文化グループから説明をお願いします。

**【教育・文化グループ山崎グループ長】**

(資料に沿って説明)

委員長となった宮川委員が本日出席されているため、補足説明等があればお願いしたい。

**【宮川委員】**

内容について補足説明はないが、地域協議会の皆さんには、是非協力をいただきたい。

**【藤田会長】**

今ほどの説明について、質問や意見があればお願いします。

**【北澤誠委員】**

私の希望として、各部会で統合に関する事項を余すことなくきちんと実行していただきたい。統合後に「予算が無いからできなかった」ということがないようにお願いしたい。

**【教育・文化グループ山崎グループ長】**

意見として承る。

**【北澤正彦委員】**

準備委員会の進捗状況や決定事項に関しての報告等は、どのようなタイミングで行われるのか。

**【教育・文化グループ山崎グループ長】**

資料1に記載したとおり、全体会議後に「たより」を作成し、3区の住民へ情報提供を行うほか、市ホームページを随時更新する予定である。また、地域協議会委員の皆さんにも必要に応じて報告することとしたい。

**【藤田会長】**

他にないか。

質問がなければ、次に「3 協議」に入る。「(1) 自主的審議事項の検討について」、

AグループとBグループの取組について、各グループから報告をお願いします。始めに、Aグループの池田副会長から報告をお願いします。

#### 【池田副会長】

Aグループの取組として、浦川原区の問題・課題について3団体から話を伺うこととしており、最後となっていた町内会長への聴き取りについて、本日配付した資料をご覧ください。9月20日付けで町内会長に「地域協議会自主的審議事項の検討に向けた『地域の課題等の意見シート』の提出について」という表題で依頼しており、現在、3つの町内会から提出をいただいている。

質問内容は、「町内の困りごとや課題についてお聞かせください。」「浦川原区全体を見たとき、地域の課題は何だと思えますか。」「町内会や浦川原区の誇れるものは何だと思えますか。」という3つの項目で、10月11日までに意見シートを提出いただきたいと思います。

今後、11月2日にAグループの第6回グループワークを開催する予定で、町内会長から提出された意見を含む3団体からの意見を踏まえ、今後どのように進めていくか話し合う予定である。報告は以上である。

#### 【藤田会長】

今ほどの説明について、質問や意見があればお願いします。

質問がなければ、続いて、私からBグループの取組について報告を行う。本日配付した資料をご覧ください。

区内の全世帯に配布した「浦川原区内の『高齢者の交通事情を改善する』取組と『ほくほく線の利用促進』に関するアンケート」について、32人から提出があった。集計結果について事務局から説明をお願いします。

#### 【総務・地域振興グループ北澤班長】

本日配付した「『（仮称）高齢者の送迎事業』アンケート結果」をご覧ください。

浦川原区内の全1,030世帯にアンケートを配布し、32人から提出があった。回収率は約3%である。参考までに、区内の65歳以上の人口は、令和2年の国勢調査で1,276人となっている。なお、今回は送迎事業を希望する方のみ提出をお願いしたが、32人のうち3分の2の方は、現時点で送迎事業を希望していないが、アンケートを提出した方であったので、実際に送迎事業を希望しているのは3分の1ほどということになる。

また、今回のアンケートは複数回答の項目とそうでない項目があるが、回答者の中には複数回答ではない項目にも複数回答した方がいたので、合計数が合わない部分がある。

それでは、集計結果について説明する。

問1の年齢構成はご覧のとおりである。問2の運転状況と運転免許証の所有状況については、「既に免許証を返納した」7人と「初めから運転していない」6人の計13人が、32人の中で現在運転していない人である。「近いうちに免許証を返納する」1人は、現在も運転している19人と重複回答となっている。

続いて問3の「お住まいの地区について」、下保倉地区が突出して多く回答があるのは、有島町内会において班単位で回収されたものが10件ほどあるためである。関連して、問4の医療機関への通院手段について、「徒歩で通院」とした6人は全て有島の方である。それ以外の方は、タクシーや家族等の送迎で通院している状況であった。

問5について、医療機関での診察が終わったら「自宅に直ぐ帰る」人が21人と多いが、「他の用事を足すことが多い」人も10人で、3分の1ほどいるという状況であった。

続いて問6は、問5の「他の用事を足す」と回答した人が、どのように移動しているかという問いで、「自分の車を使う」人が8人で、「タクシーを使う」人が4人であった。

問7は、問5で「自宅に直ぐ帰る」と回答した人の理由で、「特別な用事がない」という人が突出して多かった。

続いて問8の「区内を6地区に区分した時に、主にどこで買い物等を行うか」という問いに対し、ナルス、コメリ、クスリのアオキなどがある長走・横川・日向・六日町地区が多かった。

問9の「区内の複数箇所への送迎があれば利用するか」という問いには、「利用したい」が7人、「今すぐ回答できない」が8人、「そこまで必要ない」が9人だった。また、回答した人に参考として利用頻度を聞いた結果が下の表である。「自宅から区内の医療機関」と「自宅からほくほく線の駅」において、月1回の通院利用が最も多い。また、「ナルス・コメリの商業施設」は、ほとんどの方が週1回から2回利用している状況である。

次に問10の「公の送迎支援事業となるので、利用者から応分の負担をいただくことを承知した上で利用するか」という問いには、「利用する」が9人、「金額による」が4人、「わからない」が17人であった。

問11の「4つの地区別に運行スケジュールを作成し、月2～3回運行する場合に利用するか」という問いには、「利用したい」の3人のほか、通院等の関係だと思いが、「日付や曜日が指定できなければ利用しない」が8人、「どちらともいえない」が18人となった。

問12の「ほくほく線の待合所をカフェやカラオケ等に改装した場合に利用するか」という問いには「おおいに利用したい」が2人、「利用したい」が7人、「どちらともいえない」

が11人、「利用しない」が9人と、回答が分かれている。

次の「その他」は、複数回答をまとめて比較したものである。

始めに「車を運転できない13人の通院手段について」、「タクシー」や「家族等に依頼」が多く、次いで「自分で歩いていく」とした3人は有島の方であった。次の「応分の負担をしても送迎支援事業を利用したい」と回答した9人の地区別の内訳は、「下保倉地区」が6人と一番多かった。

次に、問9の「複数箇所への送迎」と問10の「応分の負担」、問11の「月2～3回の利用希望者」12人の移動頻度としては、月1回の通院等の利用、週に1・2回の商業施設の利用の割合が多かった。

次の「自由意見」については資料をお読みいただきたい。説明は以上である。

#### 【藤田会長】

今ほどの説明について、質問や意見があればお願いします。

(会場内から「なし」の声)

続いて、このアンケート結果を踏まえた報告として、本日配付した「区内の『高齢者の交通事情を改善する』取組と『ほくほく線の利用促進』に関するアンケート結果報告」をご覧ください。結果として「(仮称)地域独自の予算」に2件を提案することとし、一つ目に、「既に制定されている『上越市住民主導型コミュニティ交通事業』を提案するべく、早急に市交通政策課と打合せを実施し方策を探る」ため、先日交通政策課職員にお越しいたごき、意見交換を行った。ただし、具体的な交渉はまだできていない。

二つ目として、「ほくほく線の2駅舎待合所を早急に改装して有効利用が図れるようにし、『ほくほく線の利用促進』と『地域活性化』のため別途予算を計上する」こととしたい。

次に、アンケートの分析内容として、本年4月にデマンドバス3路線が廃止されたことと、ほくほく線の活性化のための駅舎の有効活用による利用促進を図るため、区内の全1,030世帯にアンケートを配布し、32人から回答をいただいた。幅広い設問のため、回答に迷いの見られる項目もあった。

医療機関には、約60%の人が自分の運転で通院しており、移動には不自由さを感じていない。残りの40%は、タクシーや家族の協力、徒歩での通院であった。この40%の人の支援が重要であり、40%の割合は、今後更なる高齢化により拡大するものと考えている。そして、「診療終了後、特別な用事もない」人が約80%で、「帰宅する」人が約70%であるが、これは、支援することで、変化すると推定できる。また、大型商業施設を利用するための希望送迎については、「利用したい」人が約30%、「今すぐ利用したい」人が約3

3%で、合わせて60%を超えており、また、「今すぐ回答できない」人については、「今は様子を見たい」と捉えたい。

最後に、設問内容も工夫が必要であったと反省しており、「今すぐ回答できない」「わからない」「どちらともいえない」等の回答については、積極的に自ら行動を起こすことをためらう傾向があり、自ら発言するのではなく、流れを見て、それに乗るといった従来からの地域風土事情と捉えられる。報告は以上である。

質問や意見があれば願います。

#### 【春日委員】

アンケートを提出した32人のうち、3分の2の方が送迎を希望していないということであり、結果について事業化が非常に難しいと感じている。アンケートの提出条件を「送迎事業を希望する人」とするより、「65歳以上の人」とした方が良かったのではないかと感じてしまう。

#### 【藤田会長】

アンケートを実施する際に、町内会の負担をできるだけ少なくしたいという思いがあり、また、喫緊に困っている人を支援するという趣旨の下、アンケートを実施したところであるが、春日委員のおっしゃるとおりだと感じている。

問2では「現在も運転している」人が60%で、この辺をもう少し考えなければならなかったと思うが、一番困っている人に手を差し伸べることを考えたときに、もう一度この内容について熟慮する必要があるのではないかと感じている。

#### 【北澤正彦委員】

アンケートの回答の数字について、問10の「受益者負担があっても利用したい」人が9人である。このアンケート結果を基に送迎事業の実施を進めるということであれば、申し訳ないが、事業を実施するには無理があるのではないかと考える。この9人を手助けするというのであれば、他の手立てを考えることはできないのか。

もう一点、ほくほく線の利用促進に関して、「自分で運転できなくなった時に、公共交通機関があれば利用したい」という回答から導かれている内容について、そういった方々が本当に利用するのかという疑問がある。現在ほくほく線を利用する年代層を把握するため、うらがわら駅で毎日何人程度が利用し、観光目的はどのくらいいるのかというデータをきちんと調査した上で検討すべきではないかと考える。

以前、アンケートを実施する際にもお話しさせていただいたが、浦川原区の2つの駅だけで、このような構想をすること自体に無理があるのではないかと考えている。北越急行は、



まつだい駅から向こうの魚沼方面については、利用促進を図るため、いろいろチャレンジしているようである。しかし、こちら側では何もしていない実態から、私としては、ほくほく線の利用促進について疑問がある。

沿線の各区で協力しながら、そのような努力をするという話であれば、地域協議会も含め、各地域の団体で知恵を出し合うということは考えられるが、まつだい駅から犀潟駅までの区間は、そういった努力をしていない。まずは、こちら側から北越急行へ話をしていくことが先ではないかと思う。その後、浦川原区だけでなく、沿線各区の全ての人たちに意見を聞くべきではないかと考える。

高齢者の送迎事業とほくほく線の利用促進を一緒に何とかしようというように見えるが、この二つは分けるべきであると思う。まず、高齢者の足となる移動手段をどうしていくかということに焦点を置くべきであり、アンケートの内容も含めて、今回の結果から全てを導き出すことは無理があると考え。藤田会長は、その辺をどのようにお考えか、お聞かせいただきたい。

#### 【藤田会長】

ご指摘の点については理解している。

ほくほく線については、アンケートの調査結果だけを報告させていただいたが、Bグループでは、市へ意見書を出すという案を持っている。具体的には、上越妙高駅への乗り入れや黒井駅への停車のほか、地域の特産をほくほく線の駅で販売するなどの案について、別途協議していきたいと思っている。

ほくほく線の利用促進は、浦川原区としてできる一つの手法であり、地域協議会が市へ意見書を提出し、市が北越急行と協議していくというような大きな枠の中で考えている。また、駅舎の改装については、地域の活性化を含めて、利用しやすいようにしていこうという考えであり、今回の報告が全てではない。

#### 【北澤正彦委員】

ほくほく線の件は了解したが、高齢者の送迎事業に関してはどうお考えか。

「受益者負担があっても利用したい」と回答した人が9人という結果では、正直なところ地域のコミュニティ交通として運行するのに値しないのではないかとと思われる。

#### 【藤田会長】

これは議論の対象であると私も受け止めている。ただ、そもそもの発想や、これまで審議してきた過程の中で、「一人でも困っている人がいれば支援していこう」という基本的な考えがある。また、問2で医療機関へ通院する方の60%が自分で運転しており、他の用事に

についても、自分で運転している人が将来運転できなくなることを想定した場合に、この事業は実施した方が良く考える。ご指摘の内容については、行政からも指摘されているところであり、「利用者が何人で、利用頻度はどうか」という判断において、どのように整理していくか、今後の議論だと思う。

NPO夢あふれるまち浦川原が実施している福祉事業の中に外出支援があり、最初は職員の声掛けにより3・4人でスタートしたが、少しずつ拡大している。老人会等の解散もあり、町内会の高齢者が団体に申し込む事例もある。つまり、結果が良ければ、皆さん受け入れてくれると思うので、先行着手的な部分があるが、実施できたら良いと思っている。

#### 【北澤正彦委員】

このアンケートから見えてくることとして、公共交通を利用したい方の多くは、現在タクシーを利用している。浦川原区にはタクシー会社が1社あり、この事業を実施した場合、最悪、浦川原区にタクシー事業者がなくなる可能性が出てくるのではないかと考える。これは誰も望んでいるものではない。また、藤田会長の言われるように、「今は自分の車を運転しているが、将来的に心配」ということであれば、もう少しアンケート内容を精査し、住民の本当の声を聴いて、もう少し詰めた方が良くはないかと考える。高齢者だけでなく、一般の人や子どもたちも利用するなど、地域の皆さんが利用しやすいものにしていかなければならないと考える。「困っている人が1人でもいれば助けたい」ということについては、私も同感である。しかし、費用対効果を抜きにして事業を実施するというのであれば、NPO夢あふれるまち浦川原の事業で実施することも「あり」ではないかと考える。

このアンケート結果だけで地域協議会で議論し、浦川原区の高齢者にとって必要な公共交通として運行することに関して、今回のアンケートで把握した9人のためだけに、次のステップに進めることは理解できない。

#### 【藤田会長】

タクシー会社との関係については、送迎事業の審議を開始する前に市がコンタクトを取っており、内容が具体的になったら再度お聞きすることとなっている。また、費用対効果については、ある程度のコストがかかっても、コミュニティ事業として活用したい考えである。この9人の送迎をNPOの事業でと言われたが、これも可能だと思っている。しかし、1・2回の実施は可能だと思うが、費用対効果が見合わず、NPOの資金から支出していくことはできない。将来続けていくためには、公の負担などを活用していかなければならない。

若い人には、高齢者は杖をつかなければ歩くことも困難で、移動に時間がかかることを含めて配慮していただき、後期高齢者の目線に立って判断をしていただきたいと思います。買い物

は手助けしてもらわないと、荷物を積み込むことができない場合もあるので、「やさしさのある浦川原」にしていかなければならないと思っている。

**【北澤正彦委員】**

交通手段のない方の足は必要だと思うが、もう少し深く掘り下げて、浦川原区内において、他の交通手段がないかも含めて検討した方が良いのではないか。

例えば、富山県朝日町で「ノッカルあさひまち」という面白い取組をされている。簡単に言うと、会社への通勤など自分の予定に合わせて、移動したい近所の利用者を自分の車に乗せて、目的地まで送迎するサービスで、LINE上で配車しながら実施している。受益者負担があるが、乗る人にポイントを付与するなどし、非常に評判が良かったと紹介されていた。

**【藤田会長】**

最終的な結論を出すわけではなく、今後もBグループでは検討を行うこととなっているので、指摘いただいた部分についても議論していきたい。

**【五井野委員】**

今、藤田会長は「最終的な結論は急がない」と言われたが、先日会長がまとめた資料には、「令和5年度の地域独自の予算に盛り込むように働き掛けたい」という話であった。また、事務局から「事業提案は明日までをお願いしたい」という話の中で、時間的なスケジュールはどうされるのか。

**【藤田会長】**

昨日のグループワークでも話したが、議論が深まっていないにもかかわらず、この問題を切り捨てるということは、上越市のやり方として良くないのではないか。五井野委員の意見は賛否を採るということか。

**【五井野委員】**

賛否を問うということではなく、令和5年度の予算編成は期限が決まっているので、この案件を進めていくのかどうかを決めないと、間に合わないのではないか。今後も議論を深めていくということであれば、令和5年度予算は間に合わないので、令和6年度予算に向けて検討していくことになると思う。その辺を確認させていただきたい。

**【藤田会長】**

令和5年度予算の対象にしていくかどうかの確認ということで指摘があったが、皆さんいかがか。

**【北澤正彦委員】**

少し待っていただきたい。今は、令和5年度予算に間に合わせるかどうかという段階では

ないと思う。Bグループでどこまで話が進んでいるか分からないが、本日、アンケート結果の報告を聞いただけで、何も見えていない。具体的な事業内容が何も示されていない中で、令和5年度予算にということは理解できない。細部を描いた運行計画がない中で、もし採決するということであれば、私は辞退させていただく。

**【藤田会長】**

まだ内容が煮詰まっていないという意見であり、Bグループ内でも、今言われた内容の意見は出ていた。また、令和5年度ではなく、令和6年度で実施しようとした場合、今年10月から安塚区や牧区で実証実験される「予約型コミュニティバス」と併せて考えた方が良いのではないかという意見もあった。本当に困っている人に手を差し伸べるには、どうしていくかということで、議論を深めていきたいと思っている。

**【五井野委員】**

藤田会長の話にあった、「予約型コミュニティバス」について補足させていただく。市の「予約型コミュニティバス」の実証運行が、10月から安塚区と牧区で実施される。この運行結果を基に交通政策課で精査し、他の地域に広げるか、あるいは区をまたいで運行できるのかどうかを検討し、早ければ、令和6年度以降に他の区へ広げるように準備するという説明をBグループでは受けている。

運行内容について、乗降場所の停留所の設定は必要だが、時間は自由である。事前の予約は必要で、料金は1回の乗車で200円となる。早ければ令和6年度から他の区にも導入されるという話があったので、「このコミュニティバスを令和6年度から浦川原区で走らせてほしい」という意見書を出すことも一つの手であると、昨日のBグループの会議で話をした。

また、駅舎の改装については、我々が提案する住民主導型コミュニティ交通事業では、利用者の待合所が必要であると考えられ、その一つとして駅舎内でバスを待っている間に喫茶スペースがあれば良いという話が出たもので、活性化や利活用という言葉は後から付いたものである。少しわかりづらくなっている部分もあるが、そういった経緯でアンケートに盛り込まれている。私は、駅舎の改装にお金をかけなくても、利用促進ができる方策を考えることが先であるという話をした。

**【藤田会長】**

他にないか。

意見がなければ、Bグループで検討し、後日報告することとしたい。

**【北澤正彦委員】**

市にお聞きしたいのだが、事業に対する予算付けには期限が設けられており、期限の在り

方に非常に難しい部分がある。今年の春に地域活動支援事業が廃止になることを聞いてから、地域協議会として自主的審議を進めて、地域の困っていることなどを事業化し、予算付けすることは良いことだと思うが、それをこの短期間でやることには無理があるのではないかと思う。もっと時間に余裕をもって、せめて「年内くらいまでに計画として出せば良い」というような救済措置があつて当然なのではないか考える。この数か月の間に意見をまとめて予算化するという事について、私は今までそういったことに携わったことがなく、いわゆる素人である。地域で困っていることがあり、どうにかしたいということは、地域協議会委員の皆さんの考えであると思うが、この短い期間の中で形にして、市へ予算を要望するのは少し乱暴ではないかと思う。また、地域協議会だけでなく、地域の団体でも提案できるということで、今まで地域協議会で考えていた事業や予算化については、私としては、やる意味がないのではないかと思えてきている。困っている地域や団体が直接市へ申請してもらえば良いことで、本来の地域協議会のやるべき内容から、状況が変わってきているのではないかと思っていて、それでも協議しろと言われていることについて、疑問がある。事務局としていかがか。

#### 【総務・地域振興グループ北澤班長】

前回の地域協議会でも説明したが、年度当初の説明では、今年度は制度設計をして、来年度に予算化に向けた検討をしていただき、令和6年度から予算が執行できるようにするという内容だった。それが「(仮称)地域独自の予算」として骨格が整ってきたため、令和5年度に前倒しして実施することになった。よって、令和5年度の予算については、地域活動支援事業の継続事業が中心になると思われるため、地域独自の予算としては、過度的な年になると説明させていただいた。

前倒しに伴って、例えば、地域協議会が自主的審議の中で、事業化を目指してきたものがあつて、予算化に間に合えば良いが、そうでない場合には、「時間がない」となってしまう。

この互助による輸送やコミュニティ交通事業は、三和区や谷浜・桑取地区でも実施しているが、半年ほどの準備期間を経ている。今回、時間がない中で、事業化することは難しいとBグループにもお伝えしているが、まとめることができれば、予算化していきたいという考えもあり、Bグループや他の委員の皆さんが、どう判断するかということである。

もう一点、誰でも提案できるという部分について、Aグループでは地域の団体と意見交換をする中で課題を把握し、どうすれば地域の活性化につなげることができるのかを話し合うこととしている。また、市長も年度当初に、「地域協議会の皆さんは、地域の方と意見交換を多くしてほしい。その中で、地域の課題等を把握し、地域の活性化や地域の宝の発見につ

なげてほしい」という話をされた。

したがって、地域協議会の皆さんは、意見交換を踏まえて地域の課題を見つけ、どうすれば解決できるかを地域の団体等と相談しながら考えていく中で、「こういったことができる」というものを事業化に向けて形にさせていただき、それを市が予算化していくということが地域協議会の一つの形である。ただし、地域協議会と関わりがない団体もあると思われるので、そのような団体も事業化に向けた提案ができるようになっている。

**【北澤正彦委員】**

今の事務局の説明を聞いて、藤田会長はどうお考えかお聞かせいただきたい。

**【藤田会長】**

私としては非常に不満である。実際に地域協議会に説明があったのは8月である。地域協議会会長会議が1月6日に開催され、市長からその旨の発言があり、その際に市長に直接「そんなに直ぐにできない」「急がなくても良いのではないかと」申し上げた。そこで、この地域独自の予算の話が出てきて、グループワークを5月から実施しているが、その整合性をどのように行政側が整えていくのかということである。

9月末までに事業化に向けて内容をまとめてほしいということについて、これまでの地域活動支援事業の内容をどうこう言うわけではないが、行政側の中身は、今までと何も変わっていないということを申し上げたい。

この問題は大変重要な問題であり、今後、進めていく上で慎重に考えていかなければならないとっていて、Bグループとしては、日程は決まっていないが、早急に集まっていただき、再度提案していくこととしたいと思っている。

**【藤田会長】**

続いて、「(2) 浦川原区地域協議会委員研修会について」、地域自治推進プロジェクトをテーマに自治・地域振興課の職員を招いて開催することとしている。開催日を秋頃としており、正副会長で候補日をいくつか上げさせていただく。まず、11月8日に中学生との意見交換会があるので、その後、午後1時30分からの開催、次に11月9日水曜日、10日木曜日、11日金曜日は午後6時30分からということで、皆さんの都合をお聞きしたい。

**【村松副会長】**

11月8日の午前中は中学生との意見交換会があり、委員の皆さんに参加をお願いしている。後日、改めて行うよりも、同じ日の午後に研修会を開催した方が良いのではないかと。

**【藤田会長】**

村松副会長から提案があったが、皆さんお勤めの関係もあると思う。いかがか。

(委員の都合を確認)

**【総務・地域振興グループ北澤班長】**

それでは、11月8日火曜日の午後1時30分と11月11日金曜日の午後6時30分のどちらかで調整することでよいか。

(会場内から「はい。」の声)

調整がつき次第、委員の皆さんに案内を送付する。

**【藤田会長】**

次に「4 その他」に入る。「出張地域協議会について」、資料2をご覧いただきたい。10月20日木曜日の午後6時30分から中猪子田集会所で開催し、会議終了後、中保倉地区の皆さんと意見交換会を行うこととしている。まずは、当日の会場までの移動手段について、事務局から説明をお願いします。

**【総務・地域振興グループ北澤班長】**

委員の皆さんには浦川原コミュニティプラザに集合していただき、市のマイクロバスで送迎する。午後6時10分に正面玄関前を出発予定としており、後日、正式に案内を送付する。

**【藤田会長】**

当日の意見交換会の進行役を務めていただく方を決めたいと思う。

**【村松副会長】**

令和2年に菱田集会所で実施した際は、自分が住む集落なので、私が進行役を務めた。

**【藤田会長】**

今回は中保倉地区なので、進行役は池田副会長でいかがか。

**【池田副会長】**

杉田委員はいかがか。

**【藤田会長】**

杉田委員は地元であり、いろいろな調整役をしていただきたいと思っているため、進行役は池田副会長が良いと思う。

**【池田副会長】**

了解した。

**【藤田会長】**

続いて、「温浴施設のサウンディング調査について」、産業グループから説明をお願いします。

【産業グループ山本グループ長】

(資料に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明について、質問や意見があればお願いします。

資料3ページに「施設や設備の改修等に必要となる経費の一部を市が負担するなど、財政面での支援策を検討しています」とあるが、金額等は決まっていないのか。

【産業グループ山本グループ長】

金額は決まっていない。資料に「今後、本調査結果を踏まえ、条件や支援策を決定します」とあり、また、「温浴機能を継続した上で、譲渡を希望される場合においては」ということで、条件によっては、市が負担することを考えているということである。

【藤田会長】

大島あさひ荘は対象施設に入っていないのか。

【滝澤主幹】

あさひ荘は、去年の春の風で浴室が一部破損している状態であり、サウンディング型調査を実施しても結果が期待できないという判断から、調査の対象外としている。

【藤田会長】

他にないか。

意見がなければ、「『人口・世帯に関する基礎データ集』について」、事務局から説明をお願いします。

【総務・地域振興グループ北澤班長】

資料3をご覧ください。この「人口・世帯に関する基礎データ集」は、上越市創造行政研究所が9月に改訂したもので、令和2年の国勢調査の結果を反映している。内容の説明は省略させていただくが、皆さんの今後の活動の中で参考としていただきたい。

【藤田会長】

今ほどの説明について、質問や意見があればお願いします。

質問がなければ、市から情報提供があるとのことなので、事務局から説明をお願いします。

【総務・地域振興グループ北澤班長】

第7次総合計画の計画案や策定状況についての説明会を、10月5日水曜日午後6時30分から上越文化会館で開催する。都合のつく方はご参加いただきたい。また、上越市男女共同参画センターの「ウィズじょうえつからのおたより」と講座のチラシを配付したので、興味のある方はぜひ参加していただきたい。



最後に、Bグループの次回の会議日程について、会議終了後に調整したいので、集まっていただきたい。

**【藤田会長】**

次に、「5 次回の会議日程」について、次回は10月20日木曜日、午後6時30分から中猪子田集会所で行う。

これで、第6回浦川原区地域協議会を閉会する。

9 問合せ先

浦川原区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 025-599-2301 (内線 305)

E-mail : [uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp](mailto:uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp)

10 その他

別添の会議資料も合わせてご覧ください。